

心豊かに
生涯学習



中之町コミセンだより

第239号

中之町盆行事「慰霊の夕べ」 しめやかに開催されました

例年8月の中旬に行われる盆行事ですが、今年は7月の大雨災害の影響から中止を余儀なくされる地域が続出しております。第二中学校区でも深町では土砂災害などの爪痕が生なましいということから中止。ただし「盆行事特別会計」の20数万円を被災地への義捐金として拠出することにされました。中之町では「慰霊祭」は行うが、盆踊りは自粛ということで全体を縮小しての開催となりました。



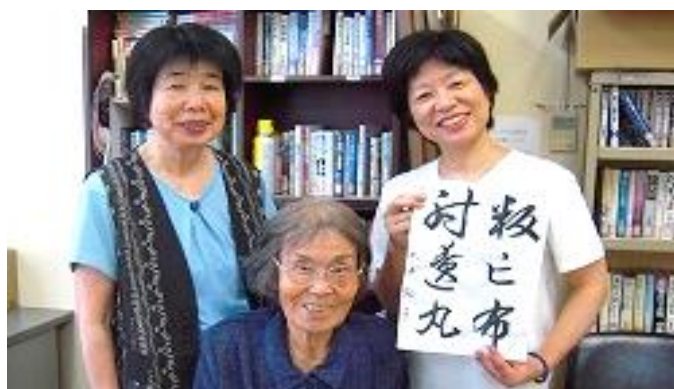
上記は中之町連合自治会主催の「慰霊の夕べ」(慰霊祭)の様子です。8月13日(月)19時から中之町小体育館で開催され、昨年8月以降お亡くなりになった物故者25名のご位牌ご遺影が並ぶ中、「ありがとう 受け継ぎますいのちを」と、関係者80名がしめやかに式を進行。物故者の思い出を噛み締めておられました。

《コミセンの講座紹介》

「書道グループ」

7月、8月号では国際交流の最前線の英会話を紹介しましたが、今月は“日本の文化”をしっかりと表現する「書道」で頑張っておられる「書道グループ」の皆さん。歴史は古く、中之町コミセン創設以来の講座の一つだそうです。現在の講師は地元の山崎 清野さん。毎月第2・第4金曜日午後7時に常時7~8名が墨筆と格闘しておられます。

取材した日はたまたまお盆時期と重なって参加者は少なかったのですが、にこやかに受け入れと取材に応じて頂きました。代表の大出さんが見本を見ながらサラサラと書かれたものはさすが!!の感があります。皆さんも如何ですか。



7月豪雨災害を通して、地域の 防災意識は高まったのか

—活かされた過去の防災訓練の成果—



7月の豪雨災害。まだまだ復興の道筋が見えていない地域もあるが、9月から10月初旬かけて中之町各地域で町内会の防災訓練が計画されていることを念頭に一つだけ述べておきたい。

今回の災害対応では中之町の皆さんは本当に良く頑張られた。第二中学校が(旧)市内での3大給水拠点の一つとして最後まで機能したのは、地元の皆さんの参加・協力なくしては成立し得なかった。初動時期から徹夜も含めて連日参加されていた方、地域へボランティアへの参加を呼び掛けて回られた方、裏方を組織された方……。様々な取り組みが、始めはバラバラだったけど徐々に組織化されていく過程で、過去に行ってきた防災訓練の要素がそこそこに活かされていることを実感できた。「いやいや、本当に役に立つのか半信半疑でやってきた訓練だったんだけど・・・」と言われながら、対応への動員を含めてスムーズに行けた背景はこうした地道な訓練の積み上げからだったろう。豪雨災害の後に来た台風からの避難も、40人近くと、いつになく多かった。避難されてきた方々の意識の高まりというよりは、呼びかけて回られた地域防災組織の熱意がこうした数字としても表れたのだろう。

「百の言葉よりも一の実践」。この言葉の重みが身に染みだ7月・8月だった。(生涯学習相談員)



平和イベント講演会

「ドームがたい」-未来への記憶

アーサー・ピナードさんを迎え
多くの市民の協力で成功裏に終了

7月28日(土)三原市中央公民館で詩人のアーサー・ピナードさんをお迎えしての平和イベント講演会が開催され、西日本豪雨災害の傷跡が癒えない時期にも関わらず多くの市民が参加されました。

この平和イベントは戦後70年目の夏の平成27年から中央公民館と市内のコミュニティセンターが連携しながら進めてきた4回目の企画です。7月18日には中之町コミセンで、7月25日には沼田東コミセンで、それぞれ地域の子どもたちも交えたプレ・イベントも開催しながら、「平和」「命」の大切さを学ぶ機会の提供ということも含め、少しずつですが定着しつつあります。

